

令和7年度帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業 実施体制（久留米市教育委員会）

【現状と課題】

- ◆市内小中学校に毎年一定数の日本語支援を必要とする児童生徒が在籍し、日本語指導を必要としている。
- ◆日本語指導担当加配教員がない学校にも、日本語を全く話せない帰国・外国人児童生徒が在籍する学校が増える傾向にある。
- ◆通訳を必要とする保護者がいる。
- ◆日本の学校生活等に不安をもつ児童生徒・保護者がいる。

《取組の方針》

- 市内小中学校において、具体的な日本語指導の在り方や効果的な支援策を共有できるようにする。
- 児童生徒の学習や学校生活支援を充実させる。
- 保護者と学校との連携を支援し、強化する。
- 保護者への支援体制を構築する。

- ◎小中学校への日本語支援サポーターの派遣
- ◎ICTを活用した日本語支援（日本語学習教材アプリを含む）
- ◎日本語初期集中講座の実施
- ◎進路相談・教育相談体制の充実
- ◎日本語指導担当教員等連絡協議会との連携
- ◎日本語指導・支援の在り方について情報発信

【成果指標】

- 児童・生徒アンケート（4段階評価）の評価平均が3.0以上
- 保護者アンケート（4段階評価）の評価平均が3.0以上